Asarum in China. Bull. Chin. Mat. Med. **9**: 27–29; 175–177. Saiki, Y. 1967. Gas chromatographical studies on natural volatile oils III, IV, V. YAKUGAKU ZASSHI **87**: 1535–1538 1539–1543, 1544–1547. Takahashi, T. 1930. Essential Oil of *Asarum Sieboldi* Miq. (Aristolochiaceae). Nippon Kagaku Kaishi **51**: 432–441.

* * * *

ウスバサイシンの精油組成の地理的変異を明らかにするとともに，ウスバサイシン属植物を化学成分の面から考察した。精油の主成分は，ほとんどの検体ではフェニルプロパン類であり，一部の地域のものではモノテルペン類である。この地理的変異の傾向はオクエゾサイシンやクロフネサイシンで報告した結果にほぼ類似している。また，モノテルペン類の組成にみられた地理的変異は明瞭であり，これによって，日本に自生するウスバサイシンを次の3群に分けることができる。本州中部以北産のウスバサイシンはユーカルボンに富み，微量の1,8-シネオール，α-ターピネオール，ターピネノール-4，ボルネオールを含む。一方，本州中部以西産のもの（熊本県のものを除く）は1,8-シネオール，α-ターピネオール，ターピネノール-4 に富み，微量のユーカルボンとボルネオールを含む。また，熊本県のものはボルネオールに富み，少量のユーカルボン，1,8-シネオール，α-ターピネオール，ターピネノール-4 を含む。モノテルペン類の組成の面では，本州中部以北のウスバサイシンはオクエゾサイシンに，本州中部以西のウスバサイシンはクロフネサイシンに一致し，また，熊本県のものは中国大陸や朝鮮半島に分布する近縁種に類似している。後にウスバサイシンの形態の変異を報告する際に，今回指摘した化学成分の差異の分類学的意義も述べる予定である。

□相馬研吾・安田啓祐：**植物の採集と観察** 194 pp. 1986. 講談社，東京. ¥2,600. 維管束植物について観察の仕方を丁寧に指導する手引書で，対象は大学生程度である。よく撮れて印刷もはっきりした写真がふんだんに使われ，約半分が写真ページになっている。それはB5判の紙面一ぱいに10数個の写真を並べて構成され，詳しい解説と対向している。シダ植物では70種以上が取扱われ，幼植物・成植物の生態，胞子嚢群など各部分の拡大，胞子・前葉体・染色体と揃っていて，シダの入門書としてもわかりやすくできている。日本産のシダ 154 種類の胞子の採集適期と採集可能期を示した胞子カレンダーは初めての試みで便利なものである。種子植物は代表的なものに限られて数は少ないが，花の解剖が主となり特に子房の中の胚珠の様子などは写真の強みを発揮している。むずかしいイチョウの配偶体もきれいに撮れている。 (伊藤 洋)